

2019年度京都医療センター リボンズハウス活動内容



- ・専任スタッフ1名
- ・場所が化学療法室と腫瘍内科の待合室とがん情報センターを兼ねている
- ・1か月の相談件数 約50件



スタッフは緩和ケアチーム所属アロマセラピストでもあり、多職種連携の大切さを実感しています。チームへ患者さんの相談を依頼することもあります。



リボンズハウス定例会議
(専任スタッフ、医師、看護師、事務など)



リボンズハウスの内観
主に各相談をここで聞かせて頂きます



抗がん剤の治療の際のアピアレンスケアについての情報提供。入院中の患者さんのお部屋へ行くことも



パンフレットや書籍の他、7年で蓄積した情報の提供を行っています。



京都大学落語研究会



めおと楽団ジキジキ



アロママッサージ



京都タオル帽子の会

イベント(6月がん支え合いの日、10月ホスピス緩和ケア週間)の開催、患者会の勉強会の協力。様々なボランティアとの連携も大切にしています

相談件数と内容抜粋 (2019年2月～2020年1月)

アロマセラピー 87件

- ・抗がん剤の副作用が怖くてパニックになったがアロマを受け治療継続できた
- ・母親の看病に教えてもらったアロマを取り入れて親子の良い時間になった
- ・腫瘍のにおいへの対策方法を知りたい

情報が欲しい 75件

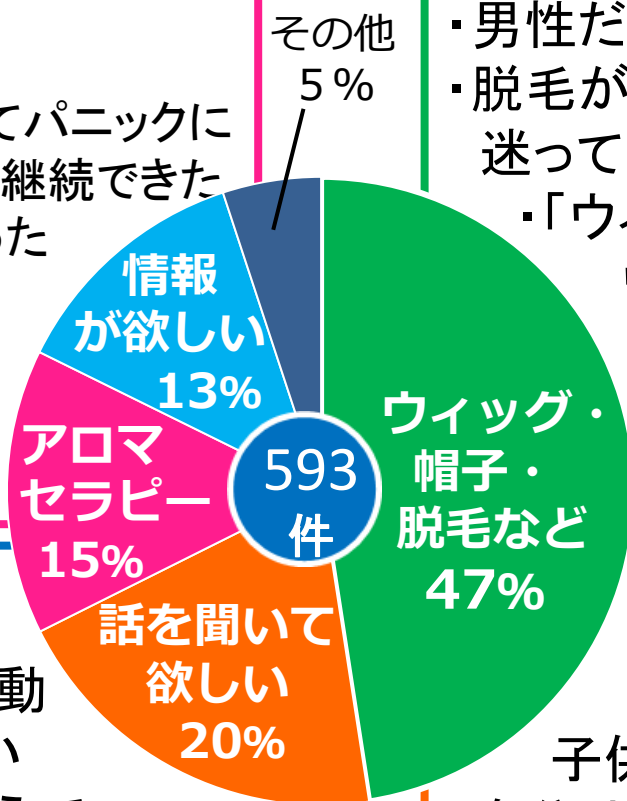
- ・がん患者でも出来る運動が出来る場所を知りたい
- ・働く世代の患者会を教えて欲しい
- ・家族として患者を支えたいので、患者に優しい食事の本を教えて欲しい

ウィッグ・帽子・脱毛など 282件

- ・手ごろな値段のものを
- ・男性だけどロングが良い
- ・脱毛が嫌なので抗がん剤治療を迷っている
- ・「ウィッグ＝がん患者」のイメージ
ウィッグの決意はつらかった
- ・家族に女性がおらずウィッグを一人で選ぶのは気持ちが重くてつらい

話を聞いて欲しい 119件

- ・仕事に復帰する。経験を子供たちの教育にいかしたい
- ・自分はその時いないかも知れないが子供の将来が気になる
- ・母が亡くなって1年。今が一番つらい話を聞いてほしくて来た



●必要に応じて相談内容を医療者や各部署につないでいくことが大切